

学校だより 芝っ子

令和6年2月27日
松本市立芝沢小学校



地域で育む子ども ～第3回芝っ子応援団運営委員会より～

2月2日に芝沢小学校コミュニティスクール「芝っ子応援団」運営委員会が開催されました。この運営委員会は、学校と地域が連携・協働しながら、子どもたちを地域全体で見守り育てることを目的に、公民館関係の方、保育園や児童センター、松本大学の先生、おはなしの会やくれきの生産組合など学校ボランティアの方、PTA 現・前会長、そして学校職員、合わせて20名ほどの委員で構成され、年に3回開催されています。



今回は第3回ということで今年度の活動のふり返りと「もっとこんな子どもに…」という視点で学校と地域がいっしょにできそうなことを話し合いました。

活動のふり返りでは、今年度は、読み聞かせやお話会、書道教室、交通安全教室の見守り、地域探検、米作り、文化祭出演・出展、通学路の点検、松本大学や保育園との交流等など、地域の様々な立場の方にたくさんのご支援をいただくことで、子どもたちの学びが豊かになったことを確認することができました。

「学校と地域がいっしょにできそうなこと」の話し合いでは、次のような意見が出されました。

- あいさつ、言葉づかいや表現力を高めるために
 - ・各町会は子どもを交えた交流の場をつくりたい。地域と関わる中で言葉を知っていくこともあるのでは。
 - ・敬老会や福祉ひろばに子どもが訪ねて欲しい。
 - ・地区の伝統的な行事を「子どもたちを育てよう」の意識で大事にしていきたい。
 - ・子どもの活動を通して地域同士のつながりをつくり、深めていけるとよい。
 - ・保育園と小学生の交流を図る。
- 通学路の点検
- 松本大学の力を借りて…
 - ・地域防災の視点で 保育園の避難訓練実施、防災講座・防災フェスティバルへの参加など
 - ・子どもの特性・発達障害への正しい理解をはかるための教室を開催するのはどうか。
- 防災について
 - ・学校は避難所になる。防災教育を含め、避難所の運営方法を考える必要がある。

また、学校は「教育の場」であり、行政サービスの場ではないという認識を改めて確認したい、というご意見もいただきました。子どもたちの学びに向かう力や豊かな人間性を育むために、学校を核とした、地域の方々との協働的な教育活動を今後も模索しながら取り組んでいきたいと思っております。

5年生へバトンタッチ



2月15日、児童総会が行われ、今年度の児童会活動のふり返りと来年度の方向が話し合われました。今年度は「みんなで協力・明るいあいさつ 笑顔あふれる芝沢小学校」をスローガンに、6年生を中心に4年生以上の児童が9の委員会に所属し、様々な取り組みをしてきました。

各委員長の発表に対し、意見や質問のある児童が、意見台に長い列を作り順に意見を言っていきます。自分の言葉で相手に自分の思いを伝える、それを聞いて自分事として考える、そんな様子が伝わりました。児童が主体となって「芝沢小」を運営していく、これからの子どもたちの姿がますます楽しみになりました。

